
[成果情報名] アスパラガスにおける紫外線除去フィルムの害虫抑制効果

[要約] アスパラガス半促成長期どり栽培で紫外線除去フィルムを展張すると、アブラムシ類、アザミウマ類の発生量を低減し、農薬散布回数を削減できる。アザミウマ類は、高さ1m付近の側枝をA4判の虫見板上で3回はたいて2頭程度で防除する。

[キーワード] アスパラガス、紫外線除去フィルム、アブラムシ類、アザミウマ類、
減農薬

[担当部署] 筑後分場・野菜チーム

[連絡先] 0944-32-1029

[対象作物] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

アスパラガス半促成長期どり栽培では、県の減農薬・減化学肥料認証制度の基準を満たす安定生産技術が確立されていない。

そこで、減農薬栽培技術として、アスパラガスにおける紫外線除去フィルムの害虫抑制効果を明らかにする。

(要望機関名 : 京都普 (H16)、農業技術課 (H17))

[成果の内容・特徴]

- 1 . アスパラガス雨よけハウスの天井に紫外線除去フィルムを展張すると、2~3年目でも一般フィルムに比べてアブラムシ類およびアザミウマ類の発生量を低減し、農薬散布回数を削減できる (図1、図2)。
- 2 . アザミウマ類は、高さ1m付近の側枝をA4判の虫見板上で3回はたいて2.7頭落ちてくると若茎の被害が10%以上になるので、2頭程度で防除する (図3)。
- 3 . 紫外線除去フィルムの展張により、アスパラガスの2次側枝は生育が旺盛になるが、収量および若茎の緑着色には影響がない (図4、データ略)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . アスパラガス栽培の手引きに掲載し、減農薬栽培技術資料として活用できる。
- 2 . ここで使用した紫外線除去フィルムグローマスターは、3年展張すると360nm付近の紫外線を7%程度透過するようになり、アザミウマ抑制効果がやや低下することもある。
なお、フィルムの種類やその持続効果については、19年度後期成果情報「紫外線除去フィルムの害虫抑制効果とその持続性」を参照のこと。

[具体的データ]

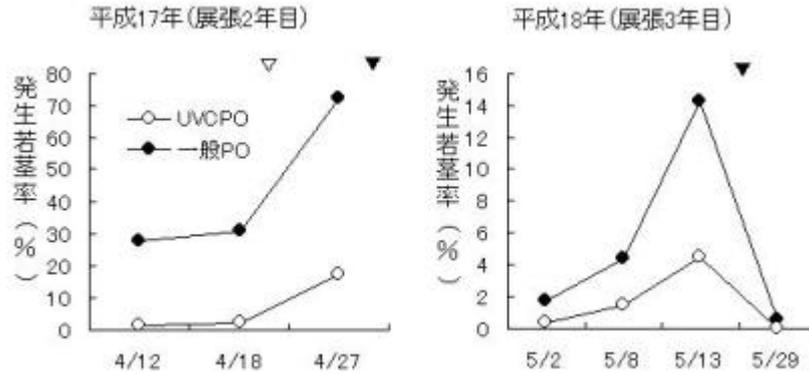


図1 アスパラガス若茎におけるアブラムシ類発生率の推移

- 注) 1. 紫外線除去フィルム (UVCPO) はグローマスター。以下同様。
 2. 調査は、1cm以上伸びた全若茎を対象とした (120m²)。
 3. はUVCPOおよび一般POの両区での農薬散布、 は一般PO区のみでの散布を表す。

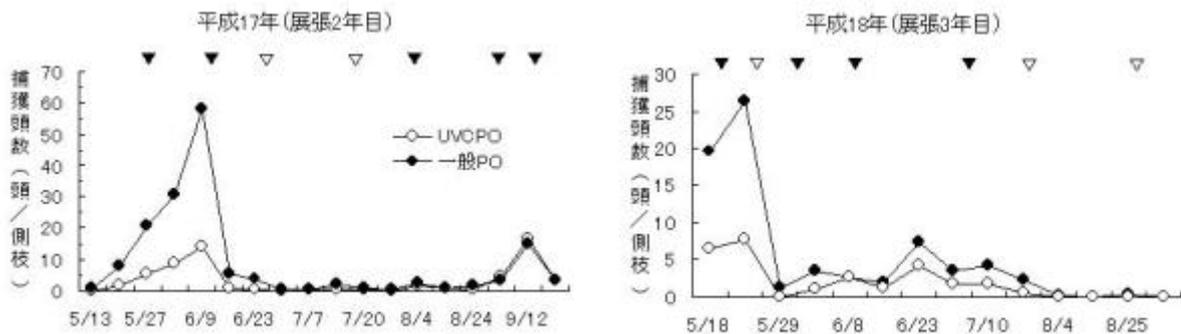


図2 アスパラガスにおけるアザミウマ類捕獲頭数の推移

- 注) 1. 高さ80~100cmの側枝を平成17年が5回、平成18年が3回はたいて落ちてきたアザミウマ類をA4判の虫見版で調査 (8カ所の平均値)。
 2. はUVCPOおよび一般POの両区での農薬散布、 は一般PO区のみでの散布を表す。

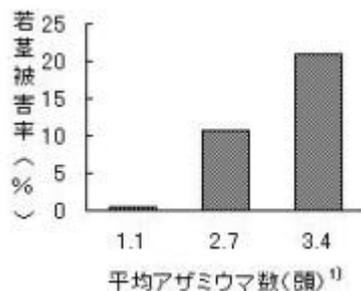


図3 アザミウマ類の捕獲頭数と若茎被害率の関係

- 注) 1. 高さ80~100cmの側枝を3回はたいて落ちてきたアザミウマ類をA4判の虫見版で調査 (8カ所の平均値)。
 2. 調査日: 平成18年6月1日及び8日
 3. UVCPO及び一般POの両区で調査。両区間の差はなかった。

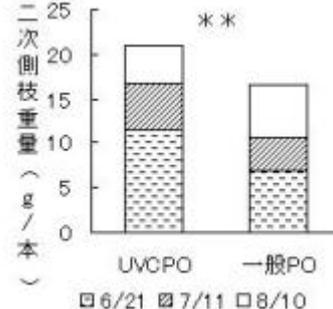


図4 展張フィルムの違いと2次側枝発生量

- 注) 1. 親株1本当たりの2次側枝重量。
 2. **は、1%水準で有意 (t検定)。

[その他]

研究課題名: アスパラガスにおける減農薬・減化学肥料栽培技術の確立
 予算区分: 経常
 研究期間: 平成18年度 (平成16~18年度)
 研究担当者: 水上宏二、平田祐子、森山友幸